環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１２７号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

第２回（2019 年度）通常総会開催挨拶

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば　代表理事 桑波田 和子

皆さまこんにちは、猛暑の日、第２回通常総会にご出席いただき、ありがとうございます。

また、ご来賓の千葉県循環型社会推進課副課長の平川様、藤平様、千葉県環境財団業務部次長の小笠原様、関東地方 ESD 活動支援センター／関東地方環境パートナーシップオフィス・島田様には、ご多忙の中、ご臨席いただきありがとうございます。

当会は、法人格取得後２回目の総会となりました。平成 30 年度は、当会の目的である環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざして事業を展開しました。主に、「SDGｓ達成のための ESD 担い手育成事業」「エコメッセ 2018in ちばの事務局機能」「千葉県環境講座」「公民館などの環境講座」等の事業を実施しました。これらの事業を通して、新たな出会いとつながりを今後に活かしていきたいと思います。

管理部門では、法務局、税務署などへの新たな対応に、理事や運営委員の力添えをいただきました。また会員や他のご支援等、感謝申し上げます。

「令和」の年号も新たに、今年度がスタートします。本日の議案書に事業予定などを提案しておりますので、皆さまのご意見・アドバイスなどよろしくお願いいたします。

SDGｓを達成するためには「変革」が必要となります。パートナーシップの在り方も既存ではない、新しい変革も探しながら歩む年にしたいと思います。

皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

第２回通常総会来賓挨拶

千葉県循環型社会推進課 副課長　平川 久美子

本日は、総会にお招きいただきありがとうございます。「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、日頃、地域の環境保全活動や各主体の連携の推進、今年で２４回目となるエコメッセの開催など、本県の環境行政の推進に多方面から御協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、県では、今年３月に第三次となる千葉県環境基本計画を策定し、「恵み豊かで持続可能な千葉」という将来像を目指して、今後１０年間の施策の方向性を定めたところです。

本県を取り巻く環境を見ると、これまでの取組により大気環境・水環境等に一定の改善が図られましたが、未だに対処すべき課題は山積している状況です。

平成２７年度に国連で採択された「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」が言及するように、こうした課題に対して統合的な解決を図ることが重要であり、基本計画ではこの考え方を反映し、分野横断的な施策を推進することとしています。基本計画の実効性を高めるためには、各主体の特性を生かした協働取組の促進が重要であり、「環境パートナーシップちば」の皆様の取組は、その中核となるものです。

県としましても、新たな基本計画のもと、様々な主体との協働を進めていきたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますの御発展と、皆様の御健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

第２回通常総会来賓挨拶

関東地方 ESD 活動支援センター／関東地方
環境パートナーシップオフィス（関東 EPO）　島田　幸子

本日は、総会の開催、おめでとうございます。

環境パートナーシップオフィス、通称 EPO は、環境省が全国８カ所に設置し、環境課題をパートナーシップで解決する事業を展開しています。この各地方 EPO が事務局を担い、一昨年、地方 ESD センターが開設され、私ども（一社）環境パートナーシップ会議は、環境省より受託し、関東地方の事業運営を担っております。

「環境パートナーシップちば」の皆様とは、長年にわたり、千葉県内の環境 NPO の取りまとめ役、中間支援組織として、さまざまな事業で連携してまいりました。特に平成 25 年から３年間にわたり、環境省「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」で、ESD プログラムの開発、小中学校での実証授業をご一緒して以来、ESD について連携していただいております。

昨年度より実施されている「SDGｓ達成のための ESD 担い手育成事業」に、関東 ESD センターとして協力しています。SDGs は全世界、全てのセクターが取り組むべき目標で、急速に関心と取り組みが広まっているところです。この事業は、ESD 地域リーダーを育成し、モデルプログラムづくりと SDGs 推進のためのプラットフォーム構築を目指す、非常に意欲的で素晴らしい取り組みだと注目しております。

また、昨年 11 月には、関東 ESD センターと一緒に地域で ESD を推進していくパートナーとして、地域 ESD 活動推進拠点のご登録もいただきました。現在、全国で 80 か所が登録されています。今後、関東圏内だけでなく、全国の地域 ESD 拠点、地方センター、全国センターとネットワークを構築し、共に SDGs 達成のための ESD を推進していただきたいと期待しております。

通常総会第２部「会員交流会」報告

総会後の会員交流会は、石井雅章様（神田外語大学）による「SDGs を『自分ごと』として理解する」講演から始まりました。

2030 アジェンダ（私たちの世界を変える持続可能な開発のための 2030 行動指針）では、SD（持続可能な開発）は５つの P(Peaple /Planet/ Prosperity /Peace/ Partnership)からなり、17 のゴールの前に目指すべき世界（すべての人々が人間らしく生きられる持続可能な世界）があり、誰ひとり取り残さないことが重要ということが掲げられている。自身の環境活動と SDGs を結びつけるものとして、持続可能な世界を実現する「学び」と「同床異夢」（異なる目的を持つもの同士がともに活動）による協働が重要、という講演内容でした。

その後、代表桑波田より「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業 2019 年度実施計画について説明があり、講演に対する質問とコメント・会員間の意見交換・情報共有の時間となりました。

一部ご紹介します。

SDGs を自分ごととして理解するためには、関心を持ってもらうよりも自分たちがどうありたいか、どのような未来（将来）をつくりたいのかを考える機会を提供することが必要。森林破壊の課題からコーディネートが必要という意見に対しては、「同床異夢」の協働が重要と繋げました。

会員から、アニマルパスウェイ、経団連自然保護協会などの情報提供があり、同席くださった関東 EPO の島田様から、2020 年に向けての国ベースの動きとして、グローバルアクションプログラム：ESD for 2030、COP10 から 10 年：愛知目標の達成（陸域と水域）、地域循環共生圏：６月８日（土）シンポジウム等の情報提供をいただき、どれもが今後の NPO 環パちばの活動の方向に有意義だったと考えています。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

（文責　横山 清美）

2019 年度事業計画について

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば 事務局長　川島謙治

法人格取得後２年目となる２０１９年度は、３事業、『1.多様な主体とのネットワークの構築事業』『2.持続可能な開発を推進する人材育成事業』『3.環境活動の推進と充実を図るための情報の発信事業』を以下のように行います。会員を含めた皆様の積極的な参画・参加をお願いします。

１.『多様な主体とのネットワークの構築事業』

市民・企業・行政など**さまざま**な主体とのネットワークづくりを行います。

1)エコメッセ２０１９in ちば、いちはら環境フェスタ、印旛沼流域環境体験フェア他に参画出展し、さまざまな主体のとのネットワークづくりを行います。

2)県内団体の現状と課題などの情報収集・分析を通じてネットワークづくりを行います。

3)昨年登録しましたＥＳＤ活動支援センターが主催する『地域 ESD 活動推進拠点』活動を行います。

4)昨年登録しました『地方創生ＳＤＧｓ官民連携プラットホーム活動』を通じて、特に行政・企業の活動の把握を行います。

２.『持続可能な開発を推進する人材育成事業』

1)「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識した事業として、以下の講演会や環境講座他を実施します。

『SDGs を達成するための ESD 担い手育成事業』として、昨年に引き続き【地球環境基金】の助成を得て、①SDGs を進めるために ESD 担い手が活躍するための ESD プラットホームづくり、②公開セミナー、③千葉県北部地区で『SDGs 達成のため、地域リーダーESD プログラムづくり』(昨年、ESD の視点を入れたプログラムを作成した地域リーダーの協力を得て、実施)

※実施詳細は改めてお知らせしますので、皆様の積極的なご参加をお願いします。

なお、3 年目は千葉県南部地区で展開する予定です。また、この事業の経過を皆さまと共有するために、ニュースレターを発信します。

2)『ちば SDGｓフォーラム』を開催します。

3)環境問題について考える講座を開催します。

4)千葉市公民館講座、いちはら市民大学環境コース、その他の講座へ講師を派遣します。

5)パートナーシップエコサロンを開催し、行政や企業・市民団体との協働・連携のための情報交換を行います。

３.『環境活動の推進と充実を図るための情報の発信事業』については、上記の１．２．の事業経過を含め、ＮＰＯ環パちばや他団体の活動をみなさまに広報するために会報やホームページ**ほか**で情報を発信します。

1)会報「だより」を年６回発行し、会員及び県及び市の環境主管部門・図書館・市民活動センター・環境団体へ送付させていただきます。

2)ＮＰＯ環パちばの活動や関連したコンテンツ情報発信は、ホームページ・メルマガを通じても行います。そのために必要なホームページの充実を引き続き行います。

3)ＮＰＯ環パちばの活動を広く知っていただくため、団体リーフレットを発行（改訂）します。

以上が 2019 年度の活動計画です。それぞれの事業は、今後、開催日・内容などの詳細が決まり次第、ホームページやメルマガ、だよりなどでお知らせいたしますので、是非ご覧のうえ、ご参加等よろしくお願いいいたします。

千葉県内環境団体の現状とニーズに関する調査結果報告

ＮＰＯ環パちば事務局長　川島謙治

高齢化、働き方等社会状況が変化するなか、県内環境市民団体（以下、団体）の現状とニーズを知り課題解決に向け表題の調査を、ちば環境再生基金の助成金を受けて実施しました。以下ご報告します。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

A）調査期間

２０１８年９月～１２月

B）調査方法

２０８団体へ用紙を郵送、回答は６５団体。回答団体から４団体に、活動詳細や連携・協働の取り組みなどについてヒアリングを実施。

C）アンケート及びヒアリングから見えたもの

- 団体概要：設立５年以上が多く、５年未満は５団体、31 年以上が３団体。会員数 20 名以上が約８割。９割の団体で 60 歳以上が加入。主な収入は会費。広報は会報・ホームページが約５割。活動地域は市内が多い。
- 困りごと：会員高齢化、固定化（新入会員が増えない）、スタッフ不足、広報ができない。
- 会員拡大：学生・親子参加の環境イベント開催で募集。
- 会運営：役員間の情報共有、会員の自主性を活かす。
- 協働：連携イベントや活動へ参加、行政と話し合い。
- 広報：会報、市広報の活用、イベントチラシ、ホームページ。
- 活動資金：会費以外は助成金、補助金、寄付金。
- ESD、SDGｓを約５割が知っているが、意識して活動しているのは約２割。
- 環境学習は多様な内容で８割弱が実施。

D）環境団体の活動の更なる発展に向けて

各団体は、多岐な環境関連分野で工夫をし活動をし、多様な主体と地域を丁寧につないで活動している。今後、持続的な発展のために、相互にサポートできる関係性の強化、情報の提供・共有のネットワーク体制づくりが必要。団体の活動にESD,SDGｓの視点を活かせるよう、周知・啓発活動が重要なことが認識された。

以上の結果を踏まえ、ＮＰＯ環パちばは、県内環境活動団体の更なる発展のために、率先して支援し発信していく所存です。

地域 ESD 拠点へ登録しました

ESD 活動支援センターでは、「地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）」の登録を呼びかけています。拠点へ登録する組織・団体の役割は、学校現場・社会教育の現場で、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいる現場の ESD を支援・推進すること。また、地域 ESD 拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域 ESD 拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれる ESD をさまざまな形で支援することで、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されています。現在、全国で 80 か所が登録されています。大学、専門学校、高校、教育委員会、ユネスコ協会、企業、市民団体など多様な主体です。詳しくは、

https://esdcenter.jp/kyoten/

をご覧ください。

そこで、当会の主な目的の１つに、「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすとあることから、昨年 11 月に拠点へ登録しました。

千葉県内の登録団体は当会のみとなっています。昨年 11 月末には、ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省が主催する「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018」（だより 125 号掲載）が開催されました。また、登録している団体の交流や地域 ESD 拠点としての活動をどのように展開するかなど、話し合いの場がありました。まずは、登録している団体間の情報交換や交流等、連携していきましょうとなりました。

地域 ESD 拠点としての当会の広報など、千葉県内でもまだ不十分です。またどのようなつながりを持つか、お互いが支援できる体制はどうあれば良いかなど、地域拠点としての活動を 2019 年度の、「SDGｓ達成のための ESD 担い手育成事業」等の事業を通して、進めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。（文責：桑波田 和子）

ＥＳＤ ロゴマーク

エコメッセ 2019in ちば出展団体募集中

テーマ：みんなで取り組む SDGｓ

～2030 年ゴールに向けた取り組みをアピールしよう！～

エコメッセちば実行委員会広報・交流部会部　谷合哲行

「つながれ，広がれ、エコメッセ「千葉最大の環境活動見本市」は、子どもから大人まで、例年 10,000 名が来場、111 団体（2018 年）が出展し、環境へのとりくみを楽しく、体験を通して学べる場です。
今年のテーマ「みんなで取り組む SDGs」、これまで以上に幅広く実践的な取り組みが見えるように、実行委員会では企画していきますので、出展して、団体のアピールなど是非お願いします。
今年の「第 24 回エコメッセ 2019in ちば」は以下の日程で開催されます。

開催日：2019 年 10 月 20 日（日）
会　場：幕張メッセ国際会議場 SDGｓ
テーマ：みんなで取り組む SDGｓ
主催：エコメッセちば実行委員会

現在実行委員会では、以下の概要で
出展団体の募集を行っています。
【募集概要】
募集区画：200 区画
廣さ：1 区画（2m×2m）単位で申込受付
出展料：企業・行政：1 区画 20,000 円
　　市民団体・大学：1 区画 8,000 円
　　高校・学生団体：1 区画まで無料、
　　但し、2 区画目からは 8,000 円/区画
電気使用料：企業・行政：500w 毎 4,000 円
　　市民団体・大学・高校・学生団体：
　　500w毎 2,000 円
募集締め切り：8月 20 日（火）
応募方法：https：//www.ecomesse.com

出展者説明会：９月９日（月）14：00～
　　会場：幕張メッセ国際会議場

≪早期申込割引制度≫
早割締め切り：2019 年 7 月 20 日（土）
割引：企業・行政：18,000 円/1 区画
　　市民団体・大学：7,000 円/1 区画
注：7 月 29 日までの料金振り込みに限る

詳細はエコメッセちばのホームページをご参照ください。
（https://www.ecomesse.com/）

エコメッセちばでは昨年からメインテーマとして SDGs を掲げ、これまで以上に幅広い活動を紹介できるよう、特別企画として、SDGｓ体験パーク、COOLCHOICE、フードドライブ、食エコレシピ、パラスポーツ体験など準備をしています。日々の生活が世界までつながっていることを実感できるような場も作り上げたいと思います。「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指した SDGs の 17 テーマに全ての人が関わりあい、協力しあって活動し、持続可能な社会を目指しましょう。そのためにも県内外でさまざまな活動を実践されている多くの方々にエコメッセ 2019in ちばに出展していただき、参加者に”自分にもできる何かを”見つけられるようなイベントづくりに関わっていただければ幸いです。たくさんの団体の出展よろしくお願いいたします。

第８回 印旛沼流域圏交流会　報告

印旛沼流域圏交流会世話人　小倉 久子

2019 年４月６日に、水資源機構千葉用水総合管理所（大和田機場）の春の一般開放に合わせて、第８回印旛沼流域圏交流会を開きました。今年は、開花後に花冷えが続いたため、当日は晴天の下、満開のみごとな桜も楽しむことができました。

第１部の交流会「印旛沼について思うこと、考えたこと、あれこれ」には 32 名のご参加をいただき、まず３名の方から話題提供を受けました。

＊印旛沼開発施設の概要―水資源機構のしごと―
水資源機構千葉用水総合管理所 市川康之さん

＊印旛沼源流域の里山における環境教育
（第 17 回世界湖沼会議での発表報告）
NPO 富里のホタル　鈴木久夫さん

＊印旛沼の「おススメ景観スポット」紹介
印旛沼流域水循環健全化会議事務局 片岡駿さん

その後に、今年の１月にお亡くなりになった白鳥孝治先生の思い出を参加者のみなさまからご披露いただきながら、先生を偲びました。

後半は、近藤昭彦さんのファシリテーターで、参加者がそれぞれ、印旛沼で好きなところとか好きな食べ物など、印旛沼のあれこれを出し合いました。原風景、原体験が現在の印旛沼流域の活動のモチベーションになっているという方が多かったようです。今の印旛沼流域にはまだ子どもたちにそのような体験をさせることができる場所がたくさんありそうなので、これらをうまく活用していきたいと思いました。

第２部　懇親会は昨年と同じ「水機構さん御用達」の中華のお店で、20 名の方たちにご参加いただき、おしゃべりと、美味しいお酒とご馳走を楽しみました。

会場提供などをお世話くださいました水資源機構のみなさま、本当にありがとうございました!!

浦安市環境フェアに参加して

チーム@エコすき　広田 由紀江

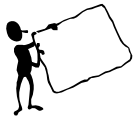
今年、浦安市の環境フェアは、４つのイベント（植木まつり、多文化共生フェア、環境フェア、カフェテラス in 境川）が合体した「浦安春まつり」の中で、５月 18・19 日の二日間にわたり行われました。

これまで環境フェアの会場は、新浦安駅前でしたが、市役所そばの浦安公園で行われました。私は、チーム@エコすきとして出展、ソーラークッキング実演とリサイクル工作を行いました。日曜日の「曇り予報」がはずれ、土日両日ともお天気に恵まれたお陰で大盛況でした。通りかかる人は必ずしも環境フェアが目的ではないと思うのですが、ジュウジュウとベーコンやウインナーが焼ける音を聞くとつい吸い寄せられ、「太陽の光だけで！」と驚いていました。太陽で炊いた白米を、お客さんに見せているうちにだんだんオコゲができていき、見ていた女の子は、「火もないのにご飯が焦げた」と大興奮。

また、手伝いに来てくれたこどもエコクラブの子の説明を聞いた多くの大人から「太陽で料理するのもすごいけれど、お兄ちゃんの説明がすごいね。何年生？」と褒められたりと、試食はなくても、多くの人に喜んでもらえたので、参加して良かったと思いました。

工作は、土曜日は省スペースでできるように「段ボールミニ恐竜」、日曜日は隣のテントも使えたので工作ゾーンが広がり、「空き容器で作るミニリコーダー」を 70 人以上の子どもたちが体験。用意していった空き容器がほぼなくなるほどでした。イベントでは、家族で手伝いに来てくれるなど人に恵まれ、また、他団体との交流もでき、見かけたので遊びに来たという人たちとの交流もあり、恵まれ楽しくありがたい二日間でした。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　50　―
おききしました！　この人・この団体



私たちの環境教育

特定非営利活動法人　NPO 富里のホタル

子供時代に得た楽しい原体験。それは年齢を重ねたとき、懐かしさや愛着を伴って、折に触れて思い出すもの。そして時には、心のより所となるようなものだと思います。私たちが再生・保全に取り組んでいる谷津田を中心とした里やまを舞台に、そのような楽しい原体験を得て欲しいと考え、現在、子供たちへの環境教育に力を注いでいます。

主な取り組みとしては、以下のようなものです。幼稚園での生き物を題材とした絵本・紙芝居の読み聞かせ、実際に生き物に触れてもらう生き物出前教室。小学生には、三年生に自然観察会と昔遊びの伝承、五年生に稲作体験学習。毎週のように私たちの活動拠点を訪れる中学校と高校の生物部の生徒達とは、谷津の整備作業や生物調査を一緒に行っています。その生徒たちには、ホタルシーズンに訪れる千人を超える鑑賞者に、毎晩ガイド役を務めてもらっています。それは「ホタルガイド養成講座」を受講してもらい、多くのことを覚えて本番に臨むものです。

学校とは別の取り組みとして、「里やま塾」と称して体験型イベントを実施しています。

早春の野草の試食・田植え・ホタル観賞・稲刈り・伐採・植樹といった内容で、併せて楽しい遊びに競技性を加えたサブイベントも行っています。それは、泥玉鬼退治・秘密基地づくり・里やま宝探し・田んぼ丸太渡りなどというものです。

以上のような場面での子供たちの反応は、とても鮮やかです。はじめは怖がっていた生き物たちを、平気で手づかみできるようになります。田んぼに入るのを嫌がっていた子も、すぐに泥まみれになり、やがてその田んぼで泳ぎ始めたりします。ホタルガイドを務めあげた生徒たちは、自信を得て、一気に大人びていきます。「里やま塾」で飛び回る我が子を見て「自分の子供のこんな姿を初めて見た」と驚く保護者がたくさんいます。

子供たちと接するときに私たちが強く心掛けているのは、「里やまは楽しい、おもしろい」と心に刻んでもらうことです。知識を与えるのはその次の段階でよい、と割り切っています。大人になったとき、これらの楽しい体験を思い出し、いずれ「里やま」に戻ってきてくれると考えています。そして中には、その「里やま」を守ろうと行動を起こす人が現れることを期待しています。

また、私たちが活動する地域は、印旛沼の源流域に位置しています。印旛沼に水を送り出す立場にあります。ある行動が結果的に思いもよらぬところに影響を及ぼす、ということを感じています。このことも意識して、活動を積み上げていきたいと考えています。

以上のような取り組みを「印旛沼源流域での里山保全活動と環境教育」という内容で述べたものが、このたび「第 21 回日本水大賞・文部科学大臣賞」を賜りました。私たちの地味で小さな活動にこのような賞を授かり、大変勇気づけられています。私たちの活動は、長く続けることで効果が表れる性質のものだと思います。今後も息長く取り組んでいきたいと考えています。

運営委員会報告

４月運営委員会

日時　４月１１日（木）15:00～18:00

場所　船橋市民活動センター

【報告】
- 30 年度助成金受託事業他報告
- 臨時運営委員会報告
- その他

【協議】
- 31 年度総会について　5/26
- だより 127 号について
- その他　（千葉市公民館環境講座）

４月臨時運営委員会

日時　４月１日（木）15:00～

場所　船橋市民活動センター

- **通常総会運営について**
- ３１年度事業計画について　・ホームページについて

５月運営委員会

日時　５月９日（木）15:00～18:00

場所　船橋市民活動センター

【報告】
- 第６回理事会（4/11）報告
- 千葉市公民館対応状況
- 2018 年度事業に関わる税務署対応
- エコメッセ運営委員会報告　・その他

【協議】
- 31 年度総会について　5/26
- エコメッセ 2019 in ちば出展内容検討
- ナガエツルノゲイトウ駆除　6/8
- 今年度事業運営の確認
- ホームページについて　・その他

お知らせ

第 71 回 パートナーシップ エコサロン

「私たちの生活とマイクロプラスチック」

・講演　限りなく広がるマイクロプラスチック汚染
－汚染の実態とその由来－
東京理科大学　二瓶泰雄教授

・ワークショップ　かしこく使おう、プラスチック

日時：2019 年 6 月 29 日（土）14：00～16：30

会場：「TENT 幕張」イベントコーナー
千葉市美浜区若葉 3－1－18
幕張ベイパーク クロスレジデンス S2-1
(JR 京葉線 海浜幕張駅から徒歩 15 分)

定員：30 名　参加費（資料代）：500 円

申し込み：info@kanpachiba.com

千葉県環境研究センター地質環境研究室
2019 一般公開
ふれてみよう房総の地質環境

月日：6 月 7 日～11 日（10 日は除く）

会場：千葉県環境研究センター
地質環境研究室
千葉市美浜区稲毛海岸 3-5-1

内容：パネル・実物展示「千葉県の台地の生い立ち他」

お問い合わせ：千葉県環境研究センター
地質環境研究室　電話：043-243-0261

※公共交通機関をご利用ください

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
http://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。